

指導資料

校内研修 第8号

鹿児島県総合教育センター
令和2年4月発行

対象 小・中・義務教育学校
校種 高等学校 特別支援学校



授業者も参観者もみんな授業力向上！ —子供の姿に着目した授業研究—

授業研究に抵抗感や負担感を覚えている教師は少なくない。本稿では、教師が前向きに取り組み、参加者全員で授業力を高め合う授業研究とはどのようなものか、当センター実施の短期研修講座や実践校の事例を通じて明らかにする。

1 校内研修における授業研究の課題等

校内研修における授業研究に、肯定的なイメージをもてない教師がいるのはどうしてだろうか。現任校の授業研究の様子を想起してほしい。下の図のような状況はないだろうか。



図 授業研究に対する教師の意識や現実のイメージ

このような事実があるとすれば、授業研究に前向きに取り組みにくく、授業研究の活性化そのものが図りづらくなる。

教師が行う研修は、教育職としての専門的力量を高めるものでなければならない。しかし、教師の専門性は、その根拠となる専門的知識を明確に示すことができないくらい複雑化していると言える。

それは、社会の変化

や児童生徒の実態で目指すべき教育の在り方が変わるからである。当然、授業もゴール自体を常に問い続けていく必要がある。このように複雑かつ不確実を特徴とする教育現場において、授業をよりよいものにするにはどうすればよいかということについて教師は常に考える必要があるが、容易に解決できることではない。それゆえ、学校内の全ての教師が参加する授業研究を有効な研修の場と捉え、授業力向上を図る実効性のあるものにしていかなければならない。

そこで、次頁以降に、教師が前向きに取り組み、参加者全員で授業力を高め合う授業研究の在り方について四つの提案を行うとともに事例を交えながら紹介する。

2 授業研究を肯定的に捉えるための四つの提案

令和元年度短期研修講座「みんなで取り組み学び合う授業研究講座【大学連携】」の実践から
 期日：令和元年6月20日(木) 場所：鹿児島大学教育学部附属小学校
 参観授業：2年生国語「スイミー」、4年生国語「一つの花」

【目的の共有】

提案1 授業研究の目的を参加者全員で共有する。

「校内の研究テーマを追究するための研究授業」を、本来「個人の課題を解決するための研究授業」を行わなければならない法定研修者（フレッシュ、ステップアップ、パワーアップ研修対象者）にさせていませんか。
 研究テーマを追究していくことと個人の課題は解決すべき課題が異なることもあり、法定研修者は授業研究で語られる内容に戸惑いを感じることも多いです。研究テーマを追究する際の研究授業は、なるべく法定研修と切り離して授業者を決定しましょう。

もちろん、法定研修の際に授業研究も行われるので、法定研修においては、授業者それぞれが解決したい課題を参加者全員で確認して、授業参観、授業研究に臨むようにしましょう。

「校内の研究テーマを追究するための研究授業」、「個人の課題を解決するための研究授業」、どちらも授業研究の目的を全員で共有することが最も大切である。また、そうすることで授業者を含め全ての教師の意欲を高めることとなります。

- 1 授業研究の目的を共有する。
 鹿児島大学教育学部附属小学校国語科の目指す授業像、目指す子供像を確認し、追究すべき点を参観者全員で共有する。
- 2 授業参観の仕方を確認する。
 受講者を4人グループに分け、さらにグループ内で2学年を前、後半に分けて参観し、事実を集める。

	2年	4年
前半		
後半		

この講座では、事実を記録するために、記録用紙を準備しました。どのような形式でも構いませんが、時系列で、「教師、子供、学習内容」で項目分けをしていると、記録しやすくなります。

【授業参観】

提案2 授業参観では事実のみを記録する。

皆さんは、何に注目して授業を観察していますか。授業観察は、授業の中核である以下のことに注目すべきです。

- ・子供の言ったことや行ったことの実事
- ・教師の言ったことや行ったことの実事
- ・学習課題や学習内容の実事

そして、これらの事実をどこで観察していますか。教室の後ろからだけでは、これらの事実を捉えることはできません。

では、事実を記録するときにごのようなことを書いていませんか。

NGワード

- ・～だったと思う。
- ・先生は〇〇すべきだったのに
- ・□□は面白いと思った。
- ・非常に素晴らしいことに…

事実を記録するとは主観を入れないということです。NGワードを各学校で設定しましょう。

授業を観察する際は、「何に注目して観察するか。」「どこで観察すれば事実を捉えられるか。」「どのように記録するか。」などのことに留意する必要があります。

事実を記録するために、参観者も集中して授業を観察する。このような経験を積み重ねることで、教師の教育的瞬間を捉える力は高まっていく。



教室の四方を使って観察し、子供の言ったことや行ったことの実事を記録します。子供のつぶやき、表情、しぐさなども見逃さないようにします。

授業研究を充実・活性化させるポイント

【提案1】から【提案4】の過程をたどり、教師の学び合いを見える化しよう。

提案3

【授業分析の仕方】

授業分析は（①事実の確認→②整理・分析→③解釈）の流れで行う。

① 事実の確認

研究テーマの視点や授業者の思いや意図に関連する記録を、付箋に書き起こします。その際、付箋の内容が推測になっていないか、評価的になっていないか、確認しましょう。

② 整理・分析

付箋を眺めて、つながりやパターンがないか考えましょう。つながりやパターンに名前を付け、カテゴリーを作りましょう。

③ 解釈

子供の立場になって考えて推測しましょう。例えば、分析で確認したつながりやパターンを与えられたとしたら、「何を知り、何ができるようになるのか。」考えてみましょう。ここで、初めて解釈をします。教師の思いや意図は、確認したつながりやパターンで有効だったかどうかを考えましょう。

4人程度のグループでこの作業を進めると、一人一人が思考を巡らせ、解釈を始める。そして、語りを通して学び合い、探究し合う過程が学び合う風土を育むことになる。

① 事実の確認

三色の付箋を用いて事実の記録を書き起こします。その際【提案1】で共有した授業研究の目的を踏まえて作業を進めることが大切です。事実のみを記入し、NGワードを使っていないか、確認しましょう。



② 整理・分析

拡大しておいた記録用紙に付箋を貼り付けます。付箋を貼り終えたら、つながりやパターンがないか探します。例えば「教師の指示の後の子供の反応」、「言葉のイメージをもたせるための教師の手立て」など、グループで語り合い、つながりやパターンを見つけて名前を付け、カテゴリーを作ります。



③ 解釈

教師の言動と子供たちの学習をつなげて考えてみます。子供の立場になって考えるとより解釈が進みます。例えば、次のように考えてみます。「もし、自分が子供であるとして、分析で確認したつながりやパターンを与えられたとしたら、何を知り、何ができるようになるだろうか。」と。そして、教師の思いや意図、解決すべきテーマにとってそのつながりやパターンは有効かどうか考えながら解釈していきます。



提案4

【提言】

これからのことを参加者全員で考える。

つながりやパターンから課題と考えられる点を洗い出し、改善策を提言しましょう。短期と長期の視点で提言としてまとめましょう。

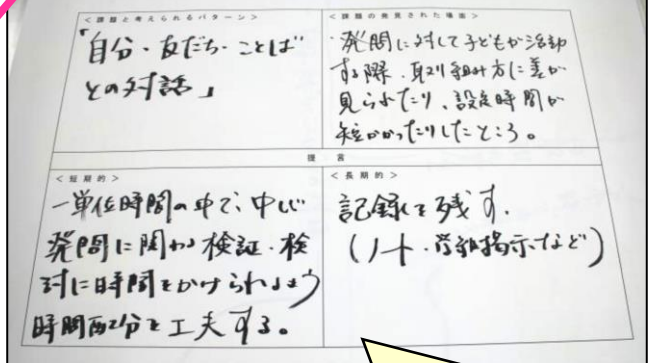
提言

短期：明日からできそうなこと
長期：時間をかけて取り組んでいくこと

校内研修の場合は、研究テーマの視点や子供に育みたい力など、参加者の追究することが同じなので、改善策の提言には十分な時間をかけて行いましょう。



校内研修の授業研究においては、授業者の思いや意図、追究すべき点が、参観者と重なることも多い。それゆえ、提言の内容は、校内の全ての教師が留意すべきものでなければならぬ



【提案3】で事実から解釈したことを基に、授業者の意図や思い、授業で実践したいことをよりよくするための改善策をまとめます。「明日からできること」、「時間をかけて長期的に行うこと」に分けて考えることが大切です。

最後は授業者に改善策を提言します。授業者の思いや意図を汲んで、多様な視点から考えたことなど語り合うことを通して「授業改善に生かしていくこと」を確認します。



3 子供の学びに着目した授業研究に取り組んでいる実践例（出水市立高尾野中学校）

中・高等学校では専門教科の違いから、「他教科の授業を見ても……」、「他教科の先生に授業を見てもらっても……」という意識が働くことが多い。しかし、子供の学びに視点をおき、授業を観察すれば、専門教科が違ってても有効な授業研究をすることができる。

出水市立高尾野中学校では、当センター短期研修「みんなで取り組み学び合う授業研究講座」で講師を務めていただいている鹿児島大学教職大学院の廣瀬真琴准教授を招聘して、子供の学びに着目した授業研究に取り組んでいる。

同校では、6月と11月に研究授業、授業研究を実施している。



6月研究授業



11月授業研究

その後、同校が発行している「職員研修だより」から教師の意識の変容を見てとることができる。

6月26日発行「職員研修だより」から

- ・ 「事実だけの記入」…意外と難しい。
- ・ 授業研究について、これまで時間をかけて考えたり、学んだりする機会がなかった。
- ・ 授業研究の観点そのものの在り方について振り返ることができた。

12月17日発行「職員研修だより」から

- ・ 生徒を中心に研修をする意味は大きい。
- ・ 生徒に着目すると全ての教科、授業で生かされる研修になる。
- ・ 多くの先生方に授業を見ていただくことで子供たちの自信になった。気軽に授業を参観できる雰囲気を作りたい。
- ・ 高尾野中に来て研究授業が楽しくなった。

4 おわりに

子供の姿に着目して分析を進めていくことは意外と難しい。教師はこれまでの経験から、授業者に着目して評価的な言動を取りがちになるからだ。ここに授業者の思いや意図とのずれが生じ、「授業を提供してよかった。」と授業者が心から思えない状況を生んでいると言える。

このような状況にならないために当センターが、平成26年度から3か年にわたり、研究を進めた「協働的で対話型の研修」である「ワークショップ型研修」も有効である。今回提案したことと併せて参考にしてほしい。

平成26～28年度 プロジェクト研究
「みんなで行い、学び合う授業研究」の進め方Ⅱ
－授業力向上を図るワークショップ型研修を通して－

当センターでは、授業力の向上を図るために全職員で取り組み、学び合うことのできる授業研究の進め方について研究してきました。
本パンフレットでは、ワークショップ型研修の手続きを生かすとともに、各学校の課題を踏まえ、授業研究の活性化を図った取組について、事例を挙げて紹介しています。

授業に備える
事前の検討

授業の実施

授業の検討
授業後評会

授業研究

よさや取組の共有

これまでのパンフレットも併せて
ダウンロードし、より
充実した授業研究
実践が期待できます。

平成28年度
みんなで取り組み、学び合う授業研究
－授業力向上を図るワークショップ型研修を通して－
パンフレット

鹿児島県総合教育センター
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/

Webサイト
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/
http://center.edu.pref.kagoshima.jp/

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/research/research.html
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/research/research.html

学校教育目標を具現化するためには、不断の授業改善が必要である。その際、チームとして授業改善に取り組む授業研究は授業力向上のために重要な研修である。本稿が、全員が楽しく力量形成を図れる研修の工夫の一助となれば幸いです。

－引用・参考文献－

- 石井英真・原田三朗・黒田真由美編著『Round Study 教師の学びをアクティブにする授業研究』平成29年、東洋館出版社
- 八尾坂修監訳『教育における指導ラウンド－ハーバードの挑戦』平成27年、風間書房
- 鹿児島県総合教育センター 平成26～28年度プロジェクト研究『「みんなで行い、学び合う授業研究」の進め方Ⅱ－授業力向上を図るワークショップ型研修を通して－』パンフレット
- 廣瀬真琴 令和元年度鹿児島県総合教育センター短期研修「みんなで取り組み学び合う授業研究講座」資料
- 出水市立高尾野中学校「令和元年度職員研修だより」

（企画課 松永 英一）